

第 19 回社会福祉士・第 9 回精神保健福祉士 共通科目

国家試験 問題・解説（やまだ塾）

=⑤心理学=（問題 41～問題 50）

（2007 年 5 月 16 日ホームページ掲載）

【心理学】

問題 41 人間の知覚に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. 10m先にいる人がだんだん近づいてきても、知覚上の大きさはそれほど変化しない。これは大きさの恒常性と呼ばれる現象である。
2. 上映中の映画館に入ると最初は暗くて何も見えないが、徐々に明るく感じて座席等が見えるようになる。これは視覚の明順応と呼ばれる現象である。
3. 月が地平線上にあるときと上空にあるときでは大きさが異なって見える。月の物理的な大きさと知覚に大きなズレが生じており、これは錯視の一種と考えられる。
4. 3つの同じ大きさの丸を書くと、空間的により近くに存在するものを1組のまとまりとして知覚する傾向がある。これは近接の要因による群化の現象である。
5. 非常にうるさい雑踏のなかでも、友人と会話を続けることができる。これは選択的注意の働きによるものであり、カクテルパーティー現象と呼ばれる。

問題 41: 正答 2○×○○○

- 1.○「知覚の恒常性」とは、例えば、斜め上から見たティカップのふちの網膜像は楕円にもかかわらず、真円として知覚されるように、物理的刺激の変化にもかかわらず、そのものの性質を同一に保とうとする知覚の働きをいい、大きさ、形、明るさ、色、方向などに認められる。一方、「知覚の選択性」とは、例えば、秋田犬を飼いはじめたら、とたんに秋田犬が目に入ってきて秋田犬は多いと感じるように、無秩序に存在する外界の刺激から、ある特定の刺激だけを選択的に知覚する現象のことをいう。
- 2.×「視覚の明順応」ではなく「視覚の暗順応」である。暗順応の逆を明順応という。明順応は暗順応にくらべて短時間ですみ、暗順応は 30 分～1 時間、明順応は 40 秒～1 分といわれている。
- 3.○昔から「月の錯視 (Moon Illusion)」と呼ばれている現象であり、現代でもその原因はまだ完全に解明されてはいない。
- 4.○群化 (体制化) とは、視野内で図と地が分化し、さらにまとまってグループを作る過程のことである。群化の要因には、①近接、②類同、③閉合、④よい連続、⑤よい形、⑥共通運命、⑦客観的構え、⑧過去経験、がある。
- 5.○カクテルパーティー現象 (cocktail party effect) とは、自分に関係のある情報に選択的な注意を向

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

け、他の情報は無視するという現象である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 42 次の文章の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、適切なものを一つ選びなさい。

人間の記憶には性質の異なるいくつかの機能があることが知られている。例えば、電話帳から電話番号を覚えて電話をかけるような場合には(A)が用いられる。その容量には制限があり、記録した情報を保持しておくためには(B)が必要であることが知られている。最近はその概念が拡張され、(C)のモデルが提案されている。

(組み合わせ)

- | A | B | C |
|-----------------|------------|---|
| 1 短期記憶……リハーサル…… | 作動記憶(作業記憶) | |
| 2 感覚記憶……アイコン…… | 作動記憶(作業記憶) | |
| 3 短期記憶……リハーサル…… | 手続き記憶 | |
| 4 短期記憶……アイコン…… | 手続き記憶 | |
| 5 感覚記憶……リハーサル…… | 作動記憶(作業記憶) | |

問題 42: 正答 1○××××

●記憶は、感覚記憶、短期記憶、長期記憶の大きく3つに分類される。感覚記憶とは、受け取った刺激をそのままの形で短時間保持され、1秒間弱保持される。短期記憶とは、短時間保持される記憶で、約20秒間保持される。7±2(マジカルナンバー)の情報しか保持できず、これはミラーによって発見された。長期記憶とは、長期間保持される記憶で、忘却しない限り、死ぬまで保持される。長期記憶の忘却は、エビングハウスの忘却曲線によって表される。

●リハーサルとは、短期記憶の忘却を防いだり、長期記憶に転送したりするために、記憶すべき項目を何度も唱えることで、「維持リハーサル」と「精緻化リハーサル」に分けられる。

●作動記憶(作業記憶)は、バドレーが提唱した短期記憶を発展させた概念で、「作業記憶とは、理解、学習、推論など認知的課題の遂行中に情報を一時的に保持し操作するためのシステム」と定義した。短期的な情報の保存だけでなく、認知的な情報処理も含めた概念である。ものごとを考えるときに使う記憶と説明されることもある。

1.○(A 短期記憶, B リハーサル, C 作動記憶(作業記憶)), 2.×, 3.×, 4.×, 5.×

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 43 愛着に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- A. ボウルビィ(Bowlby, J.)は、愛着理論を構築することに努力した人であり、内的ワーキングモデルの確立に寄与した。
- B. 愛着障害は、反応性愛着障害として「抑制型」と「脱抑制型」に分けられる場合や、「反応性」と「脱抑制性」に分けられる場合などがある。
- C. 愛着の測定に用いられるストレンジ・シチュエーション法によって、様々な愛着の型が見いだされた。しかし、この方法からは、虐待を受けたなどの劣悪な環境と関係している愛着の型を見いだすことはできない。
- D. 安定した愛着を示す子どもは、恐れや不安を感じたときには、親が近くに来て、自分を助けてくれると信じている。このような「安全基地」としての存在は、自分や他者、周りの世界への信頼を築く上で、とても重要な役割を果たす。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	○	×	×	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 43: 正答 1○0×0

- A.○内的ワーキングモデル(internal working model)は、「人や世界との持続的な交渉を通じて形成される世界、他者、自己、そして自分にとって重要な他者との関係性に関する表象」と説明されている。ボウルビィは、内的作業モデルを通して、さまざまな自身の危機を乗り越えられると考えたとされる。
- B.○反応性愛着障害(reactive attachment disorder)は、必要とされる世話を適切に受けられないことによって生じる障害であり、アメリカ精神医学会の DSM-IV の分類では、①安楽・刺激及び愛着に対する子どもの基本的な情緒欲求の持続的無視、②子どもの基本的な身体的欲求の無視、③第一次世話人が繰り返し代わることによる安定した愛着形勢の阻害、が要因としてあげられている。
- C.×「見いだすことはできない」ではなく「見いだすことができる」である。養育者自身に虐待経験が見出されることもあるとされる。ストレンジ・シチュエーション法(Strange Situation Procedure)とは、ボウルビィのアタッチメント(愛着)の理論に基づいて、エインズワースが乳幼児の母子間の情愛的結びつきの質を実験場面によって観察・測定するために開発した実験法である。子どもと養育者の分離・再会の場面を作り、行動パターンの違いを見る。エインズワースは、愛情を注がれた幼児とそうでない幼児との間にはっきりとした違いを見だし、これは幼児が人見知りをして、分離不安を示す月齢8か月に特に顕著なこととする。結果は、一般的には3分類される(①A 群(回避群):母親との結びつきの薄い行動を示す、②B 群(正常群):母親との結びつきの強さを示し、母親への信頼感を内包する行動を示

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

す、③C 群(抵抗群):母親と十分な信頼感をもてない)。

D.○安全基地(secure base)とは、基本的な信頼感があると、母親に必ずしもいつも接触しなくても安全を感じることができることを発見し、母親を安全の基地として用いながら探索活動に熱中するようになることをいう。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 44 バーンアウト(燃え尽き症候群)に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. マスラック(Maslach, C.)のバーンアウト尺度(MBI)によれば、バーンアウトは、情緒的消耗感、個人的達成感の低下、脱人格化に特徴づけられるが、さらに検証が続いている。
2. 燃え尽き症候群という意味での「バーンアウト」の概念を最初に提唱したのは、フロイデンバーガー(Freudenberger, H.)であり、1970年代に入ってからのものである。
3. 「仕事上の悩みを相談する」、「職場での不満を話す」などの、上司や同僚への自己開示は、職場での自分の評価や立場を悪くすることもあり、バーンアウト対策のソーシャルサポートとしては、効果がない。
4. 職場の人間関係や利用者との関係のなかで、傷ついたり、疲れてしまったりすることがバーンアウトの原因になることもある。
5. 職場の管理者は、職員のメンタルヘルスに気を配り、職場配置や勤務体制、職場内外での職員研修などを通して職員のバーンアウト対策を心掛けることで、職員がバーンアウトへと至るリスクを少なくすることができる。

問題 44: 正答 3〇〇×〇〇

- 1.○マスラックは、「バーンアウトとは、極度の身体疲労と感情の枯渇を示す症候群」と定義し、1970年代後半から1980年代初頭にかけての実証的研究の結果、バーンアウトの尺度として、「マスラックバーンアウト尺度(MBI)」「バーンアウト指標尺度(BI)」を開発した。
- 2.○アメリカで対人サービスにおけるメンタルヘルスが注目されるようになったのは1970年代半ばであり、1974年にアメリカの精神心理学者フロイデンバーガーによって初めて使われたといわれる。
- 3.×「効果がない」ではなく「効果がある」である。バーンアウトに対する予防・軽減策として、職場における人間関係、ソーシャル・サポートの重要性が指摘されている。何かあったとき、困ったとき、支えてくれる人がいるというソーシャル・サポートは、職場ストレス場面の有効なリソースのひとつと考えられており、ソーシャル・サポートがストレスとストレス反応との関係に緩和効果を持つことは、多くの研究で指摘されている。
- 4.○職場の人間関係や利用者との関係におけるストレスが、個人として対処できる度合を大きく超えてしまい、ストレスが原因と思われる燃え尽き症候群(バーンアウト)、過敏性大腸症候群、無気力症候群、摂食障害(神経性食欲不振症)、被害妄想、仮面うつ病などを引き起こす。
- 5.○援助の専門職は元来使命感や責任感の上に成り立っているといっても過言でない。職場の管理

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

職のみならず、援助の専門職にとって、バーンアウトについての知識は不可欠であり、健康的に、質の高い仕事を続けるために、燃えつきの兆候に早く気づき、有効な対処ができることが重要であり、リスクマネジメントが求められている。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 45 社会的な認知や行動に関する用語とその現象に関する次の記述の組み合わせのうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. ハロー効果………集団的な共同作業を行うときに、集団の人数が多いと一人一人の作業への努力が低下する。
2. 社会的手抜き………タバコを吸っている人が「タバコは体に有害ではない」、「タバコは体によい」といったタバコを正当化する情報を得ようとする。
3. 社会的ジレンマ………一人一人が楽をしようとしてゴミの分別をしないことによって、ゴミの処理過程で有害物質が発生して環境汚染が生まれ、社会全体の不利益が発生する。
4. 社会的アイデンティティ………成績がよい子どもに対して、本来成績とは無関係な性格面や行動面についても肯定的に評価してしまう。
5. 認知的不協和………海外旅行に行き和食や風呂が恋しくなることで日本人であることを改めて実感する。

問題 45: 正答 3 × × ○ × ×

1. ×「ハロー効果」ではなく「社会的手抜き」である。社会的手抜きは、ドイツの心理学者リンゲルマンに由来し、「リンゲルマン効果」とも呼ばれる。逆に、観察者や共行動者がいる場合の方が一人のときよりも個人の作業量が増加することを「社会的促進」という。
2. ×「社会的手抜き」ではなく「認知的不協和」である。認知的不協和は、1975 年にフェスティンガーによって提唱された。
3. ○社会的ジレンマとは、一人ひとりが自分にとって望ましい行動をとると、その行動自体にはほとんど問題がなくても、そのような行動が集まったときには社会的にも個人的にも望ましくない結果が生じるというメカニズムであると説明されている。
4. ×「社会的アイデンティティ」ではなく「ハロー効果」である。「ハロー効果」は、一般にポジティブな方向への歪みをさすが、ネガティブな方向へのハロー効果も存在する。
5. ×「認知的不協和」ではなく「社会的アイデンティティ」である。「社会的アイデンティティ理論」は、1986 年にタジフェルとターナーによって提唱された。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 46 心理検査に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

1. 失認検査は、脳損傷による人格の偏りを測定しようとするもので、神経心理学的検査の一つである。
2. 知能検査は生まれながらの知能を数値化しようとするものであるため、その結果は一生涯を通じてほとんど同じである。
3. 投影法によって把握できる性格特性は、客観的で数値化が容易なため、検査者が異なっても同じ検査結果を得ることができる。
4. 発達検査は言語や知性が未発達な乳幼児の発達段階を見るもので、ほとんどの発達検査の対象年齢は3歳未満である。
5. 作業検査法は、単純作業に取り組んだ結果を分析することで、作業能力などの心理的特性を探ろうとするものである。

問題 46: 正答 5 × × × × ○

1. ×「人格の偏りを測定」ではなく「高次脳の障害を測定」である。たとえば、半側空間失認の通常検査として、線分の2等分試験、模写試験、抹消試験などで、見落としがおきやすい場所、程度が判定される。
2. ×「一生涯を通じてほとんど同じ」ではなく「一生涯を通じて変化しないという性質はもたない」である。「スタンフォード・ビネー式知能検査」の開発者のターマンは、多数の知能検査の実施事例から「IQの恒常性」(IQは加齢によってほとんど変化しない)を主張したが、現在では、実施検証によって、IQは生涯を通して変化しないという性質をもたないことが分かっている。
3. ×「同じ検査結果」ではなく「検査結果は異なる」である。心理検査には、①質問紙法、②作業検査法、③投影法があり、いずれの検査結果も一つの側面であって、そのみで被験者の評価につなげられない。被験者の状態、検査者による判断の違い、テスト自体の持つ構造的な特徴に左右される。そのため、いくつかのテストを行い、より多角的な側面から検討される。
4. ×「ほとんどが3歳未満」ではなく「適用年齢は多様」である。発達検査は、主には乳幼児や小学生の発達の度合いを調べて養育に役立てるための検査であるが、たとえば新版K式発達検査の適用は成人である。発達検査は心理検査の一種である。
5. ○内田クレペリン精神作業検査は、ドイツのクレペリンが精神作業の実験心理学的研究のために考案し、1924年内田勇三郎が独自に発展させ標準化した検査である。仕事の処理能力、積極性、意欲、行動ぶりなど意思的能力を中心とした性格傾向を測定するものである。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 47 障害の受容に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

1. 中途障害者の障害受容は、キューブラー・ロス(Kubler-Ross, E.)の「死の受容過程」になぞらえて、否認、取引、抑うつ、受容など幾つかの段階で説明されることが多い。
2. 同じような障害を有する人達と交流することで、自分の能力に対する気づきなどが生じ、障害受容

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

を促進しやすいといわれる。

3. 障害のある子どもの保護者が、我が子の障害を受け入れていくまでには段階的な過程があるといわれる。

4. 障害のある子どもの保護者が、我が子の障害の受容をすすめるために、早期から母子ともに長期間入所して療育を受けることが一般的に行われている。

5. 障害の診断をどのように告知するかは、子どもの保護者が障害を認識する過程に大きな影響を与えるので、その内容や伝え方には十分な工夫と配慮が必要である。

問題 47: 正答 4〇〇〇×〇

1. 〇人間は個別の存在で多様であり、キューブラーロスの 5 段階の理論を使えばケアができると考えるのは短絡的であるという指摘もなされている。

2. 〇身体障害は、身体機能と心理機能の両面で深刻で持続的な障害をもつものであり、その援助方法としてピアサポートの有効性が主張されている。

3. 〇親が子どもの障害を受け容れていく過程のモデルでは、アメリカのドローターらのモデルである。ダウン症や身体障害などを生まれながらもった子どもの両親との面接から導かれたもので、「ショック」→「否認」→「悲しみと怒り」→「受容」という段階を踏んで障害を受け入れていくというものである。

4. ×設問の内容はかつての障害をもつ子どもへの一般的な考え方、対応であった。現在では、障害のある子どもが、将来において地域で自立した生活を送っていくためには、早期に適切な医療や支援を受け、かつ、保護者も正しい知識や情報を持つことが大切であるとされる。また、障害者が長期入所・入院から地域での自立生活への移行を推進するためには、保健・医療・福祉の総合的な連携のもとに、地域生活でのさまざまなニーズに対応した相談窓口やリハビリテーション体制等の充実が求められている。

5. 〇混乱し動揺している家族・親に対して、「平易に説明しやすく専門知識がなくても理解されやすい情報と必ずしもそうでない情報を整理し、継続的に情報を提供することや、障害に関する図書やパンフレットの常備や活用」なども提案されている。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 48 家族療法や家族への支援に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

1. システム論的な家族療法では、家族の中のIP (Identified Patient/Person) が中心となって動き、IPは家族システムの変化を起こすキー・パーソンとなる。

2. 統合失調症に対する家族心理教育を支える理論基盤として、ストレス脆弱性モデルと、家族の感情表出 (EE) 研究などがある。

3. 戦略派家族療法では、「リフレーミング」、「逆説的介入 (パラドックス技法)」などのアプローチを取る。ユニークな催眠療法で知られるミルトン・エリクソン (Erickson, M.) の影響が随所に見られるアプローチである。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

4. 構造派家族療法のアプローチでは、家族の構造に焦点を当てる。「境界」などの鍵概念を用い、「ジョイニング」などの技法を通して構造の再構築を促す。
5. 解決志向アプローチは、「例外を探す(例外の質問)」、「ミラクル・クエスチョン」などの技法を通して、解決に焦点を合わせて、未来を志向するアプローチである。

問題 48: 正答 1×○○○○

●家族療法は、アメリカで 1950 年代の半ばごろに生まれた家族全体を対象とした心理療法で、家族を一つのまとまりを持ったシステムとみなし、その家族システムを対象としてアプローチしていく、システム論に基づいた療法である。

●家族療法には、現在 10 以上の流派があるといわれ、それぞれ特徴を持った理論と技法が展開されているが、システム論を中心とするのはどの流派にも共通している。

1.×「家族の中の IP が中心となって動き、IP は家族システムの変化を起こすキー・パーソンとなる」ではなく「家族の中の IP だけの問題として捉えるのではなく、この IP がよりよく機能できるように、家族全体のシステムの問題として捉え、る家族成員は相互に関連しあっていて切り離しては理解できないと考える」である。

2.○統合失調症は、ストレスの要因となるようなライフイベント(冠婚葬祭、引っ越し、進入学、人事異動など)をきっかけに発症することが多いといわれる。脆弱性(病気になりやすいかどうか)と、ストレス(発症のきっかけとなる)の組み合わせにより精神疾患が発生するとする「ストレス脆弱性モデル」が提唱され、現在では広く受け入れられている。また、家族の感情表出(EE)が、回復や再発に大きな影響を与える(統合失調症者の家庭の雰囲気、家族の態度によって本人の症状がよくなったり、悪くなったりする)ため、家族の強い批判的な感情表出が研究されている。高 EE 家族の慢性ストレス下では、ライフイベントの負荷がなくても発症・再発する統合失調症者が多かったことが報告されている。

3.○戦略派家族療法は、系譜としては、コミュニケーション派の延長線上にあり、長期にわたる目標設定(「人間的成長」など)を避け、家族の主訴を迅速かつ効果的に解決することを優先する。リフレーミング技法とは、問題状況や症状の事実によく適合するように新たな理解の枠組みを提示することで、家族の現実認知を変化させようとする技法である。また、パラドックス技法とは、家族の 1 人に問題に関連する行動を逆転するように要請し、それによって他の家族員の逆説的反応を引き出すことをねらうものである。

4.○構造派家族療法のアプローチは、家族システムの構造特性を明確に規定するところに特徴がある。家族構造の捉え方として、境界線、提携、権力の 3 つに注目し、家族の構造の再構築を促すような介入を行う。家族システムにセラピストが溶け込む過程(ジョイニング)を重視し、サブシステムの境界に働きかけて構造変革を促す。

5.○解決志向アプローチは、短期療法のひとつのアプローチで、活動の場とからミルウォーキー派、BFTC アプローチとも呼ばれている。解決志向アプローチは、薬物や飲酒等の嗜癖による家族の問題、虐待等の重篤な家族問題を扱っている。最大の特徴は、問題がいかにか形成されたかというものには注目せず、ダイレクトに解決の状態をめざす心理療法ということである。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 49 福祉現場でのアクティビティーに応用可能な心理療法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 遊戯療法は、遊びを通じて子どもが、自らの問題状況や、言語化できない感情を表現することを目指すものであり、そのために使用される玩具や遊びの手順は事前に細かく規定されている。
2. 音楽療法は、音楽を媒体として身体機能の維持・向上、情緒の活性化を図ろうとするものであり、集団で行う演奏活動に参加することで初めて効果が発揮される。
3. 臨床動作法は、「動作」という心理活動を通して、生活における体験の仕方の変化などを目指して、様々な臨床的な援助をする方法であり、自発的動作の少ない重度重複障害児・者へも適用可能という特性がある。
4. 心理劇は、集団内で即興的な役割演技をすることで個人の創造性や自発性の発展を促すものであり、参加者全員が毎回演者となるように場面設定がなされる。
5. 回想法は、過去の出来事を振り返ることを通じて自らの人生を肯定的に再評価できるようになることをねらいとし、主として引きこもりの若者への援助方法として用いられている。

問題 49: 正答 3 × × ○ × ×

1. × 「手順は事前に細かく規定されている」のではなく「手順を決めずに自由にさせる」である。遊戯療法は、守られた空間の中で自由に遊ぶことを通じて、こころの発達を促進し、問題解決を図っていくという心理療法である。子どもは言葉が未発達なために言葉を用いて自分の思いをうまく表現することができずに、ストレスや不安をこころの中に溜め込んでいる。遊戯療法では、自由に遊ぶだけでよく、ほかの治療法のような治療に対する恐怖感も起こさせない。
2. × 「集団で行う演奏活動に参加することで初めて効果が発揮される」のではなく「音楽療法で使われる音楽や音楽活動は、対象となる人のニーズや能力に応じて提供され、「個別音楽療法」「集団音楽療法」と区分して説明されることもある」である。
3. ○ 成瀬悟策が開発した動作法は、1960年代から開発が始められた日本独自の心理学的援助技術である。脳性まひ児の動作改善を目的として始まったが、神経症や統合失調症等の改善にも顕著な効果があることがわかり、広く活用されている。
4. × 「参加者全員が毎回演者となるように場面設定がなされる」のではなく「必ずしも毎回演者の場面設定はなされず、治療として、必要であれば演者ではなく観客としての役割で参加することもある」である。心理劇は、モレノによって、1936年に始められた、ドラマ形式を用いた集団療法である。心理劇の要素は、①監督、②補助自我、③演者(役割演技をする人である)、④観客(劇をみる人であるが、劇の展開によっては演者にもなる)、⑤舞台、の5要素から構成される。参加者全員が演者となりうるが、演者にとって大切なことは、役割をうまく演じるのではなく、自分なりに演じることができることとされている。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

5.×「引きこもりの若者」ではなく「高齢者」である。回想法とは、1960年代に、バトラーにより提唱された、主として高齢者のために、脳を活性化させ、活き活きとした自分を取り戻そうとする手法である。バトラーは、「高齢者の回想は、死が近づいてくることにより自然に起こる心理的過程であり、また、過去の未解決の課題を再度とらえ直すことへ導く積極的な役割がある」と述べている。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題 50 高齢者の心理的特徴に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

1. 成人期以降の発達に個人差が大きくなるのは、環境的影響よりも生物的影響を強く受けるからである。
2. 結晶性知能は新しい環境に適応したり、新しいことを学習したりする能力に関係するもので、老年期において衰退しやすいといわれる。
3. 老年期の発達課題は親密性の獲得といわれ、自我意識の確立に伴って、他者との親密な関係を結ぶことが必要である。
4. 高齢期の心理的問題は、身体的問題と密接な関係がある場合も多い。心理的援助においても、身体的問題をある程度アセスメントできる能力が求められる。
5. 高齢者は、自分の人生の意味を求めようとすることが多いので、その心の働きを肯定し、高齢者一般に共通する「死生観」を教示することが、心理的援助には重要となる。

問題 50: 正答 4×××○×

1.×「環境的影響よりも生物的影響」ではなく「生物的影響よりも環境的影響」である。現代の発達心理学における発達の概念には、成人期以降の中年期・老年期も発達の段階として含まれており、誕生から死までの全生涯の過程を発達と定義している。成人期以降は必ずしも知的能力が衰退を示すというのではなく、一定のレベルを維持するものや上昇するものなど様々であり、個人の生活要因(環境・社会・文化)が大きく影響を与えていると考えられている。

2.×「結晶性知能」ではなく「流動性知能」である。結晶性知能は、一般的知識や判断力、理解力などで過去に習得した知識や経験をもとにして日常生活の状況に対処する能力であり、70歳以降になればなだらかに低下するもの成人期に近い能力が維持されている。一方、流動性知能は、新しいものを学習したり覚えたりするような、経験の影響を受けることが少ない、むしろ生まれながらもっている能力に左右される知能をいい、老年期以降低下する。

3.×「親密性の獲得」ではなく「自己の人生を自己の責任として受け入れること」である。エリクソンは、精神分析論(フロイト派)に立ちながら独自の発達理論(ライフサイクル論)を提唱した。人間の発達を情緒・社会的側面の発達領域から8発達段階に分け、その発達課題を①乳児期:基本的信頼対不信、②幼児前期:自律対恥・疑惑、③幼児後期:主導性対罪悪感、④児童期:勤勉対劣等感、⑤思春期・青年期:同一性(アイデンティティ)対拡散、⑥初期成年期:親密対孤独、⑦成年期:生殖性対停滞、⑧成熟期:統合対絶望とした。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

4.○高齢者の心理的問題として、医療受診においては、身体的問題と心理的問題が絡み、主として、抑うつ、不安症状、および適応障害が見られるとされ、そこには心理療法が有効であるとされているが、心理的援助においても身体的問題をアセスメントできる能力が必要とされている。

5.×「高齢者一般に共通する「死生観」を教示する」のではなく「高齢者にその人なりの価値観・死生観を受け入れ、その人なりの死への思いを支えること」が重要な心理的援助である。また、医療・福祉関係者には死生観が必要とされるが、その死生観は「固定」したものであってはならない。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】